

第 50 期日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画

広島市立大学 国際学部 4年 赤畑利奈

2024 年 1 月

はじめに

Hola!

新学期が始まり、新たなクラスメイトと先生のもとで学ぶことが多く充実した日々を過ごしています。1月は12月よりも寒くなると聞いていましたが、日中は毎日20℃越え、時には25、26℃と夏のような日差しが降り注いでいます。ただ朝晩や屋内は肌寒いため、上着を持ち歩いていて、何とも不思議な気分です。

今回はメキシコの年始の行事、コンサート、観光地についてご紹介いたします。

Día de los Reyes Magos(三賢者の日)

年が明けてメキシコの人たちが楽しみにしているのがこの三賢者の日です。この日をもって12月12日から始まった長い長いクリスマスシーズンは終わりを迎えます。12月25日にイエス・キリストが生まれ、その知らせを聞いた東方の三賢者がイエスと聖母マリアのもと(ベツレヘム)に到着した1月6日を祝うようになったそうです。

子供たちにとってこの日は「おもちゃの日」、三賢者がイエス・キリストに対し贈り物を送ったことに由来してクリスマスのサンタクロースにお願いするように、三賢者からおもちゃをもらいます。今回私は見かけることができませんでしたが、前日1月5日には街のいたるところで、三賢者のイラストが描かれたヘリウムガス入りの風船が売られるようです。子供は三賢者にプレゼントしてほしい物の手紙を書きます。それを風船に括りつけて空へ飛ばすと三賢者のもとへ届き、次の日にそれをプレゼントしてもらえると考えられているようです。ショッピングセンターなどにはポストが設置され子供たちが三賢者に手紙を送れるようになっていました。

この時に食べられるのがロスカデレジェス(ロスカ)というパンです。大きさはさまざまですが、親戚一同で集まる際は大きなロスカを用意します。ドーナツ状の甘いパンでメキシコの伝統的なロスカは砂糖漬けされたサクランボやイチジク、アテという羊かんのようなフルーツのお菓子がトッピングされた部分とメロンパンのようにクッキー生地に覆われた部分でできています。ドーナツ状の形は三賢者の王冠と終わりも始まりもない神の愛を表しています。またトッピングのフルーツも王冠の宝石を表していて平和、愛、幸福の象徴でもあります。このロスカはクリスマスシーズンに入るとレストランやスーパーなど様々な場所で売られるようになります。ロスカを食べる際はホットチョコレートを飲むことが多いようでチョコレートも同じように大量に陳列されていました。

食べるときは一人ひとり好きな大きさに切り分けます。このときパンの中からプラスチック製の人形が出てきた人には、その人形がその1年幸福をもたらしてくれるとされています。ただ幸福をもたらすだけでなく、この人形が当たった人は2月2日のカンデラリアの日にタマルと呼ばれるトウモロコシ粉で作られるメキシコ風のちまきを、ロスカを分け合った全員におごらないといけません。幸運なようで不運という興味深い風習です。



イエス・キリストの子供姿を模した人形、形や色もさまざまで意味もそれぞれあるようです…

Cumbia

クンビアとはラテン音楽の一種でコロンビア発祥の音楽とされています。ラテンアメリカ全体に広がり、それぞれの国、地域で異なった特徴を持つ音楽です。メキシコで演奏されるクンビアはクンビア・メヒカーナというそうです。クンビアはダンスミュージックなので、パーティーの際によく流れていて、ペアになって踊ります。今回アウディトリオという大きなコンサートホールで行われるクンビアのコンサートに行ってきました。何より驚いたのは演奏中に席を立ち、通路で踊りだす人の多さです。クンビアはダンスミュージックでよくパーティーの際にながれていることが多く、ペアになって踊ります。演奏が始まれば、観客が何組ものメキシコ人が通路に出てきて音楽に合わせて踊り始め、曲が盛り上がれば盛り上がるほど踊る人々がどんどん多くなっていくのにびっくりしました。特に通路が大きくとられている1階席では座っている人よりも席から出て踊っている人のほうが多いのではないかと思うほどでした。日本だと基本的にコンサートでは席に座る、立っていても自分の席からは離れることはありません。だからこそ踊りたいから踊るメキシコの人たちを見て新鮮な気持ちとともに陽気な「メキシコらしさ」を感じた出来事でした。



枠線で囲んでいる場所は通路。皆さん踊ることでコンサートを楽しんでいました。

Templo Mayor

メキシコシティの中心部には世界遺産「メキシコシティ歴史地区」があります。スペイン人の征服後、建設されたゴシック、ルネサンス、バロックなどの建築様式が入り交じった大聖堂、宮殿などヨーロッパ風の建物が立ち並ぶ地区に突然現れる大きな遺跡、それがテンプロ・マヨールです。このテンプロ・マヨールはプレヒスパニック、つまり 1519 年スペイン人による征服前に、かつてこの地にあったアステカ帝国の首都テノチティトランの大神殿跡になります。現在のメキシコシティのほとんどは元々湖であり、アステカ帝国が建国されていました。この遺跡に隣接している博物館では遺跡から発掘された遺物やレプリカなどを見ることができます。迫力があるのは骸骨を彫刻した祭壇です。博物館にはレプリカが展示されていますが、それでも目の前にすると怖さを感じます。現在も発掘、調査が続けられているこの場所ではタイムスリップしたような気分を味わえるので、メキシコシティを訪れた際は行ってみてください。



中心部にふっと現れる遺跡
結構間近で見ることができるのでお勧めです！

広島県日墨報告書 1月

赤畑 利奈

2月に入ると冒頭で紹介したタマルをおごるカンデラリアの日があり、学期末試験が待っています。前学期以上にしっかりと勉強してまいります。試験が終われば広島県の姉妹都市グアナファト州を訪問する予定です。高校生の時に訪問して2度目のグアナファト、皆さんにいい報告ができるのを楽しみにしています！

それでは

¡Hasta luego!



桜のような花

1月のお気に入り写真

テンプロ・マヨールで見かけた木

まるで桜のような花をつけていてまだ1月ですが
温かな気候も相まって春を感じた瞬間でした。